

令和8年度第2回木更津市総合計画審議会 会議録

I. 開催日時 令和8年7月24日（金）午後2時00分から午後3時30分まで

II. 開催場所 木更津市役所駅前庁舎 防災室・会議室

III. 出席者（敬称略）

【審議会委員】

飯田聡子、神谷信久、国友和也、越路武史、小林孝雄、小宮一則、清水一太郎、
下村健介、鈴木誠、瀬沼健太郎、高木愛子、滝口君江、武内貴史、玉丸森敏、
林健一、平野俊江、平柳利一、宮川絵理子、吉田昌弘

【木更津市】

渡辺市長、品川企画部長、鈴木企画部次長、鎌田課長補佐、土屋主査、奥主査、
佐藤主任主事、久野主任主事

【株式会社アイ・ディー・エー（委託会社）】

梶原

IV. 議題及び公開非公開の別

（1）市長あいさつ

（2）会長あいさつ

（3）第4次基本計画の構成・体系について 公開

（4）その他 公開

V. 傍聴人の数 1人

VI. 会議の内容

1. 市長あいさつ

○企画課 鎌田課長補佐

令和8年度第2回木更津市総合計画審議会を開催いたします。なお、本日の審議会につきましては、会議録及び記録書作成のため、会議の内容を録音・撮影させていただきますので、あらかじめご了承ください。会議録につきましては、後日ホームページにて公開いたします。それでは、議事に入る前に、市長から挨拶を申し上げます。

○渡辺市長

皆様、こんにちは。市長の渡辺でございます。

本日は、ご多用のところ、木更津市総合計画審議会にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

また、先日開催いたしました第1回審議会におきましては、委員の皆様から貴重なご意見やご提言を賜りまして、心より感謝申し上げます。

さて、本日 皆様に改めてご審議していただく内容は、次期 基本計画の構成および体系についてでございます。

次期基本計画は、今後の市政運営の指針となる重要な計画であり、本市の将来像の実現に向けた具体的な取組の方向性を示すものであります。そのため、社会情勢の変化や市民ニーズを的確に捉えながら、実効性の高い計画として策定してまいりたいと考えております。委員の皆様におかれましては、忌憚のないご意見を賜りますよう改めてお願いさせていただきます。

結びにあたりまして、本市のより良い未来の実現に向けて引き続きお力添えを賜りますようお願いするとともに、暑い夏これから始まりますのでぜひご自愛の上でご活躍いただければと思います。今日はお忙しい中本当にありがとうございます。よろしくお願いいたします。

○企画課 鎌田課長補佐

ありがとうございます。続きまして、清水会長からご挨拶をいただきます。

○清水会長

はい、皆様こんにちは。委員の皆様には、ご多忙のところ、第2回木更津市総合計画審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

本日は、今後の計画の方向性に関わる重要な案件についてご審議いただきます。

より良い計画となるよう、委員の皆様と認識を共有しながら議論を深めてまいりたいと考えておりますので、忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたします。

簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○企画課 鎌田課長補佐

ありがとうございました。続きまして、5月18日付けで本審議会の委員にご就任されました、木更津市保育協議会 林 健一 委員に本日ご出席いただいておりますので、ご紹介させていただきます。それでは、林委員から、一言ご挨拶をお願いいたします。

○林委員

木更津市保育協議会の林と申します。よろしくお願いいたします。

○企画課 鎌田課長補佐

ありがとうございます。また、本日は、第4次基本計画策定業務を委託しております、株式会社アイ・ディー・エーの梶原様にご出席いただいております。

○企画課 鎌田課長補佐

それでは、議事に入らせていただく前に、資料の確認をさせていただきたいと存じます。事前に配布させていただきました資料といたしまして、

- ・ 会議次第
- ・ 委員名簿
- ・ 資料1「第4次基本計画及び実施計画第4期まち・ひと・しごと創生総合戦略策定方針」
- ・ 資料2「目次及び第1章のイメージ」

- ・資料3「第2章 施策ページのイメージ」
- ・参考資料として、「構成・体系の検討」でございます。

また、本日の配布資料といたしまして、

- ・座席表 でございます。

資料に不足・落丁等ございましたら、事務局までお申し出いただきますようお願い申し上げます。

この後、審議会を進行してまいります。委員様のご発言の際には、挙手の上、お手元のマイクのボタンを一度押していただいて、赤いランプが点灯いたします。その赤いランプが点灯している間にご発言をいただいて、発言が終わりましたらもう一度真ん中の銀色のボタンを押していただいてマイクが終了となりますのでよろしくお願いいたします。

それでは議事の方に入らせていただきます。附属機関設置条例第6条第1項の規定により、「会長が会議の議長となる」ことになっておりますことから、清水会長に議事の進行をお願いいたします。

○清水会長

はい、ただいま、事務局から説明がありましたとおり、会長が会議の議長となることになっておりますので、私が議長を務めさせていただきます。円滑な議事進行にご協力のほど、お願いいたします。本日は、池田委員、石渡委員、大西委員、曾我井委員、中村委員及び松田委員の6名が欠席、出席者は19名であり、附属機関設置条例第6条第2項の規定により、半数以上の出席がございますので、会議の開催要件は満たしております。また、本日の審議会は、「木更津市審議会等の会議の公開に関する条例」の規定により、「公開」となっており、会議資料、会議録も公開となります。本日は1名の傍聴希望者がいらっしゃいますのでこれより入室していただきます。ご了承くださいますようお願いいたします。

2. 議題

議題(1) 令和7年度第3次基本計画の進行管理の結果について

○清水会長

それでは、議事に入ります。はじめに、議題(1)「第4次基本計画の構成・体系について」を議題といたします。事務局から説明をお願いいたします

○企画課 鈴木次長

それでは、議題1「第4次基本計画の構成・体系について」ご説明させていただきます。

まず、議題についての説明に先立ちまして、5月末にとりまとめ、策定作業を進めるにあたり、庁内各部署に周知しております第4次基本計画等の策定方針の概要につきまして、ご説明させていただきます。

資料1をご覧ください。

内容につきましては、大きく分けて5点記述しており、「策定の趣旨」「計画の構成」「策定の基本的な考え方」「考慮すべき視点」「策定スケジュール」で構成しております。

まず、1. 策定趣旨でございますが、現行の第3次基本計画と第3期総合戦略は今年度で計画期間が満了となることから、令和9年度から12年度の4年間を計画期間とする第4次基本計画及び第4期まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定しようとするものでございます。

人口減少や超高齢社会の進行、気候変動への対応、デジタル化の急激な進展など、社会構造が激変している中、これまでの成果と課題をしっかりと検証し、「次の木更津」を見据えた持続可能で選ばれるまちづくりの指針として、新たな計画を策定しようとするものでございます。

次に、2. 木更津市総合計画の構成につきましては、第4次基本計画もこれまでと同様、「基本構想」「基本計画（総合戦略を含む）」「実施計画」の3階層で構成します。

改めてではございますが、基本構想は、令和12年を目標年次とする、本市のまちづくりの最上位計画となります。

その下の階層として、今般は、基本計画及び総合戦略を令和9年度から12年度までの4年間を計画期間として策定します。

資料1の2ページをご覧ください。

実施計画につきましても、現行と同様に、基本計画を具現化するための重点的な事業について、財政計画と整合を図りながら毎年度見直しを行い、公表してまいります。

次に3. 策定の基本的な考え方でございますが、7点記述しております。

1点目につきましては、第4次基本計画は現基本構想下における最終の計画となることから、第1期から第3期までの取組の成果を踏まえ、構想の実現に向けて施策の推進方策を検討すること。

2点目につきましては、フォアキャストとバックキャストを組み合わせた考え方を採用し計画を策定すること、

3点目につきましては、重点的に取り組むテーマを明確化すること、その他、基本構想に掲げる方向性に沿った体系整理をすることや市長マニフェストを踏まえた施策展開、実現性・実効性を確保した計画づくり、オーガニックシティの確立を位置付けております。

3ページをご覧ください。

次に4. 考慮すべき視点でございますが、「人口減少・少子高齢化への対応」、「地域経済の活性化と産業振興」、「持続可能な財政運営と効率的な行政」、「市民参加と協働のまちづくり」など、8点掲げています。

次に5. 策定体制でございますが、計画の策定にあたりましては、庁内の各部の次長級で組織する総合計画策定会議のほか、本審議会での意見聴取や、意見公募、きさらびみなトークを通じて広く市民の声を反映していくこととしております。

次に6. 策定スケジュールでございますが、最終ページに記載のとおり直近では、本日、

基本計画の構成、体系についてご説明した後、9月頃に計画骨子案、11月頃に計画素案、年明けの意見公募を経た後に年度末に計画策定をまいります。

最後に、7.進行管理でございますが、第4次基本計画も年度終了後に指標の達成状況を検証し、計画の実効性を担保してまいります。

以上が、策定方針の概要でございます。

続きまして、只今ご説明させていただきました策定方針に基づき、現在、計画づくりを進めておりますが、本日は、「第4次基本計画の構成・体系について」ご意見を頂きたくご説明させていただきます。

資料2をご覧ください。

はじめに、本資料につきましては、本日の議題であります基本計画の構成・体系について、より具体的にイメージしていただけるよう、構成・章立て以外の各記載内容につきましては仮置きしているものでございます。

各記載内容につきましては、次回ご審議いただく骨子案におきまして、ご提示させていただきますので、本日はあくまでイメージとして、ご承知いただきますようお願いいたします。

それでは、下段に番号を振っております1ページ、2ページの目次をご覧ください。

第4次基本計画の章立てといたしましては、現行の第3次基本計画と同様に、第1章で総論、第2章で施策別の具体的な計画、第3章につきましては、まち・ひと・しごと創生総合戦略としたいと考えております。

資料3ページ、4ページをご覧ください。

第1章につきましては、第4次基本計画の概要、計画策定の背景、持続可能なまちづくりの推進に向けた基本的視点、そして、重点プロジェクトの4項目で構成したいと考えております。

5ページ、6ページをご覧ください。

1-1 第4次基本計画の概要といたしまして、(1)策定趣旨と位置づけでございますが、先ほど策定方針でもご説明させていただきました策定趣旨やこれまでと同様に3層構造のうち、2階層目となる基本計画、及び3階層目となる実施計画を策定すること、また、計画期間といたしまして、現行の基本構想に基づく、最終の基本計画として策定することなどを記載したいと考えております。

7ページ、8ページをご覧ください。

(2)ロジックモデルを採用した計画づくりといたしまして、基本構想に掲げる将来都市像「魅力あふれる 創造都市 きさらづ」の実現に向け、実効性を高めるため、ロジックモデルによる計画づくりをしていることについて記述し、基本計画には、ロジックモデルの例を記載し、毎年の進行管理の際に、ロジックモデルを生かしていきたいと考えております。

9ページ、10ページをご覧ください。

(3)人口の現状と今後の見込みといたしまして、第3次基本計画におきましては、現状

の人口と将来人口推計を別ページで記載していたところ、今回の計画では、こちら1カ所に集約して記載したいと考えております。

(4) 計画の進行管理につきましては、第3次基本計画と同様に記載したいと考えております。

11ページ、12ページをご覧ください。

1-2 計画策定の背景でございます。(1) 国内の社会情勢の変化でございますが、第3次基本計画では、社会情勢の変化等について文章で記載しておりましたが、今回の計画では、グラフやイラストなどを多く挿入し、読みやすく分かりやすいような内容にしていきたいと考えております。

13ページ、14ページをご覧ください。

(2) 木更津市における課題でございますが、ここでは、市民アンケートによる施策の評価結果や課題分析と今後のまちづくりの方向性について、記載していきたいと考えております。

15ページ、16ページをご覧ください。

1-3 持続可能なまちづくりの推進に向けた基本的視点でございますが、(1) オーガニックなまちづくりの推進でございますが、改めまして、本市のまちづくりの大きな柱であるオーガニックなまちづくりについて、基本理念や、「自立」「循環」「共生」の3つのキーワード、そして、きさらづ地域循環共生圏について記載したいと考えております。

17ページ、18ページをご覧ください。

(2) その他の視点といたしまして、DXを取り入れた行政サービスの変革やゼロカーボンシティの実現に向けた取組などを、代表的な取組例と合わせて記載したいと考えております。

1-4の重点プロジェクトでございますが、

第3次基本計画におきましては、重点戦略として総合戦略にも共通する4項目を掲げておりましたが、一つの計画書の中に基本的視点や重点戦略、基本方向、総合戦略の基本目標など、目指すべきとする項目がいくつも存在し、要点が分かりづらい状況でございました。

このため、第4次基本計画では、重点プロジェクトとして、今後4年間で特に力を入れて推進する施策横断的な取組について、記載したいと考えております。

具体的には、18ページに記載しております「地域循環共生圏の創造に向けた取組」や

19ページに記載しております「中心市街地活性化に向けた取組」など、3項目から5項目程度に絞って記述したいと考えております。

第1章につきましては、以上のとおり進めたいと考えておりますので、本日ご意見を頂戴したいと考えております。

続きまして、第2章の構成イメージにつきまして、資料3に基づきご説明させていただきます。

資料3をご覧ください。

こちら、今回は、施策別の具体的な計画についての構成について、イメージしていただけるよう、記載しております内容については、サンプルとしてご承知くださいますようお願いいたします。

今回、表と裏に2つのパターン案をご提示させていただいております。

基本的には、第3次基本計画と比較して、文章量を削減したいと考えており作成しております。

構成といたしましては、施策別の目指す姿、オーガニックなまちづくりに向けた取組、現状と課題、市民の声、関連する個別計画、主な取組の6項目をベースに検討しております。

1ページの案でございますが、

第3次基本計画からの主な変更点でございますが、オーガニックなまちづくりに向けた取組の欄を先に表示することで市の政策の主軸であることを表現しております。

また、第3次基本計画では現状と課題について別項目としておりましたが、記載が似てしまっているところも多く拝見されることから一項目にまとめようと考えております。さらに、昨年度実施した市民アンケートやタウンミーティングの意見から市民の声が市政に届いていることを表現するため、市民の声の項目を追加したいと考えております。

加えて、グラフやイラスト、写真などを追加することで、冊子を見た方に圧迫感の無いデザインを検討しております。

現状と課題の欄については、グラフなどで代用することで、もう少し文字の量を縮減できないか検討をしているところです。

2ページの案をご覧ください。

こちらのイメージについては、文章を限りなく少なくし、グラフやイラストなどを多用し、見た目をシンプルにしたイメージです。課題や主な取組の文章が少なすぎるため、読み手に伝えきれないことが心配されますが、庁内から収集している取組など、実際の文章を落とし込むことで、文字量はもっと多くなると思います。

本日は、イメージとして本資料を提示させていただきましたが、今後骨子案を作成する段階で掲載文章やページデザインについて再考していく予定としております。本日は現状のイメージとしてご意見などがございましたら頂戴できればと思います。

最後に、参考資料として、第4次基本計画の策定について、構成などを検討するため第3次基本計画を参考に整理したものと、第1次基本計画から構成を一覧に整理したものとなります。今後の参考としていただければと思います。

説明は以上となります。どうぞよろしくお願いいたします。

○清水会長

ただいま、説明がありましたが、ご質問、ご意見など、ございましたらお願いいたします。

○玉丸委員

基本計画につきましては特に異議等はありませんが、関連してご要望というか意見を述べさせていただきたいと思っております。2、3分ほどお時間いただければと思います。

資料１の１ページ目のところの次の木更津を見据えながら、持続可能で選ばれるまちを実現するためのまちづくりの指針として、とありますがこれはとても大事なテーマであると思っております。少子高齢化の先に持続可能な地域社会をどうやって作れば良いかというテーマにもつながっていくもので、大変重要なテーマでもあると思っております。個人的な感想としては、これから先も少子高齢化を止めることは難しいと考えております。ここ数十年、国もいろいろな取り組みをしてきましたが、いまだに有効な手立ては取れておりません。少子高齢化の先に持続可能な地域社会を、そして、選ばれるまちをどう作っていくかについてちょっと意見を述べさせていただきたいと思っております。少子高齢化や人口減少には出生率を上げるという、年齢にこだわるのではなく、社会の支え手の数と能力を高めて対抗するしかないと言われております。縮小・人口減でも成長する方法を考え出さなくてはならないということになりますが、それには人口減少をカバーするほどの労働生産性を上げることだとも言われております。また住民票のある定住人口の数だけにこだわるのではなく、通勤、通学、観光、買い物、イベント、市内で働く人、市内に数時間・数日滞在する人といった、住んでいなくても木更津市にお金と活力・活気をもたらしてくれる人、いわゆる木更津市との関係人口を増やす間接経済効果を増やす方がより現実的だと考えております。さらに選ばれるまちを目指すとするれば、いつでもどこでもどこにでも速やかに移動できる交通網の整備が必要かと思えます。国交省の資料によれば圏央道について成田や木更津市など、首都圏主要拠点を結ぶ広域ネットワークとして位置づけられております。本日の資料１の３ページ目の４番、考慮すべき視点２にアクアライン等の広域交通ネットワークを活用した経済波及と書かれております。これは大変素晴らしいことだと思います。まだ気づいていないアクアラインの持つ莫大なエネルギーを使いこなす必要があると思っております。これまでもアクアライン６車線化のお願いをしてまいりました。今回加えてご提案したいことは羽田空港と成田空港を取り込んだ広域国際交通網の構築を考えております。生成AIが登場し社会の在り方を根本から変えようとしています。テクノロジーによって多くの仕事が自動化されていきます。木更津市は圏央道上に羽田側のアクアラインと成田方面の東関道を結ぶ位置にあり地理的には非常に特徴的な場所にあります。両空港の中間に位置してアクアラインと圏央道が交差する極めて重要な交通結節点になっております。よってアクアライン６車線化に加え、セットで今回現在の圏央道一部区間暫定２車線を早期前線４車線化としていただけないかと思っております。そして羽田・木更津市・成田間をレベル４無人自動運転専用レーンまたは有線レーンを設置し、バストラック貨物を２４時間３６５日巡回自動運行できるシステムを国・県に要望してほしいと考えております。高速道路上ですので歩行者はいません。信号機もないので一般道に比べれば自動運転には適した環境にあると思っております。しかしこれだけでは木更津市がただの通過点になってしまいますので、選ばれるまちのイメージとして自動運転で世界とつながる新しいまちづくりとして、近年国交省がバスタプロジェクトとして鉄道やバス・タクシーなどの集約型公共交通のターミナルを官民連携で整備することを推進しております。これは全国各地でももうすで

に一部始まっているところもございます。国が進めるバスタプロジェクトを活用し、アクアライン高速バスハブ化を現在アクアラインに接続・隣接する金田西地区都地区画整理地の中に県有地と民有地を合計した約2.1ヘクタールの敷地があります。この敷地にハブ化のバスターミナルを設置してはいかがかと考えております。ちなみに民有地所有者はこれについて賛同しております。このターミナルを拠点として放射線上去き来ができる、乗り換えができて、南房総全体の利便性を良くすることで利用者を増やすべきではと考えております。またこのターミナルの公共性においては、災害防災時に救援活動等の緊急物資の輸送拠点、自動運転サービス拠点、EV充電基地広域交通網の完成センター拠点等、また、ターミナル周辺と木更津市内への経済波及効果につきましては、羽田成田空港関係者、高速道路関係者、物流関係者、国内外企業の関係者、外国人技術者、企業家たちの居住地、ホテルマンション戸建て賃貸需要等、また、羽田・成田空港到着貨物を木更津市で仕分け、施設の建設とか航空関連企業物流企業の誘致、また、AIロボットの関連企業の研究開発拠点、データセンター国内外企業の進出や商業施設の増加など、人口減少を緩和する効果も期待できるのではないかと考えております。自動運転が本格普及すると都市開発の主役が駅・港から移動ネットワークで空港拠点へと広がっていくと言われております。実際世界では空港を核とした広域都市圏が出来上がっている国もございます。国際化が進むと人の移動貨物輸送ビジネス交流の中心が空港になるため、木更津市は羽田・成田の中核都市を目指すべき時だと思っております。最後にですが、今回のこの提案の核心は道路ではございません。羽田と成田の二大空港を中心とした広域経済圏の中核都市になるということでございます。木更津市として国、県、高速道路会社、交通事業者、空港関係者と連携し、この構想の調査研究をぜひ始めていただきたいと提案したいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

○企画課 鈴木次長

非常に多様な、非常に夢のあるご提案も含めていただいたものというふうに認識しております。この中で選ばれる地方というところについては、私どももこれからのまちづくりとして、大きなキーワードになると考えております。特に、若者あるいは女性などに選ばれるような地域でないと、これからの時代、人口という面からも、同様に活力の面からも非常に難しくなってくると考えております。

そういったところで今回計画の中で実現をどのようにしていくかという施策展開も盛り込んできたといと考えておりますし、また、空港という観点については、自衛隊の滑走路などを活用させていただきながら、活力といった面でも取り込んでまいりたいと思っております。

また、アクアラインの6車線化といった国に対する要望なども含めた中での施策展開を今回の各章・各施策の中で、できる限り盛り込んでいきたいと考えております。

また、今後の審議会において、素案等をお示しする段階の中でどこまでできるかということを含めて、検討させていただきます。

また、今回いただいたご意見も参考にさせていただきたいと考えております。

○小宮委員

現在、全国各地において宿泊税が導入されており、ご存知のように千葉県においても宿泊税が導入されるとのこと。また、木更津市においても今後、導入に向けて進められておると認識しております。そういったものがしっかりと活用される、これが新たな市に対する財源だと思いますし、それが、いわゆる先ほどもございました関係人口というところから、この地域に誘客をし、そして、やはりお客様から、来られた方からしっかりお金を頂戴し、それを関係事業に対して還元をするということが非常に大事になってくるかと思います。これから次の4年間を構築されるということですので、ぜひ、そういった新たな財源も含めて、活用するということも盛り込んでいただきながら、策定に当たっていただけたらと思います。

○企画課 鈴木次長

ただいまいただきました、観光の振興ということでございますが、今回、観光振興というところの施策が、基本方向4のまちのにぎわい活力づくり、そして基本政策の03の観光の振興というところの記述がございます。こちらを、また庁内関係課で、具体的な施策展開、ただいまいただきました宿泊税の活用も含めた形で、施策展開を検討しているところだというふうに考えておりますので、その具体的な内容につきましては、次回以降の素案、また今後の骨子等で、またご説明させていただきながら、ご意見等を頂戴していきたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

○国友委員

第1章の構成についてお聞きしたいのですが、ここではまさに今回の基本計画の概要をしっかりと述べるところになると思うのですが、例えば1-3、持続可能なまちづくりの推進に向けた基本的視点というところで、これは中身的には、いわゆるオーガニックシティ木更津の話、あるいは地域循環共生圏の話を書かれていますけれども、その内容の説明をどういう具合にしてこの基本計画に結びつけて述べようとされているのかなというところを、お聞きしたいと思います。とりわけ、オーガニックシティ木更津の認知度が必ずしも高くない中で、そこをどういう具合にうまく解きほぐして、説明して、基本計画に連携させる、まさに有機的な結合をそこにロジックとして持っていくのかなというところが、非常に大事であり、気にかかるところなので、その考え方をお聞かせいただければと思います。

○企画課 鈴木次長

オーガニックなまちづくりは、非常に広い範囲に、まちづくり全般に及ぶものでございます。そういった中で、資料の2の3、各施策の方に、具体的な各施策にどのような形で及ぶかというところを記載させていただく予定としております。資料3の上段の方にオーガニックなまちづくりに向けた取り組みということで、市民ができること、また事業者ができることについて、記載させていただきまして、これを各施策において、オーガニックなまちづくりの実現に向けて取り組んでいきたいということで、お示ししてまいりたいと考えております。

○国友委員

そうしますと、個別の施策の中でも、オーガニックなまちづくりに向けた取り組みとどういう関係を持っているかということを説明されていくということで理解しましたけれども、逆に、例えば保険の充実といった例がありますが、それに対しても、やはりオーガニックなまちづくりというのは関連してくるんだという話を、初めのオーガニックなまちづくりのところで説明しておかないと、里山の再生とか、何とかとかいう話の中だけ、そこだけ話しして、急に保険の充実との関係というところで、またオーガニックなまちづくりという話が出てくると、非常に唐突な感じがするので、初めの説明のところで、いかにきっちりコンセプト、あるいは具体例も含めてしておかないと、何かとってつけたようなものにならないかなということが心配されます。

もう一つ、基本計画の概要に関して、1－2ですね、計画策定の背景ということで、市民アンケートについて述べようとされているかと思います。このアンケートを背景の重要な柱に据えてしまうと、逆に市民の評価そのものでもう政策が決まってしまう、例えば、先ほど徐々にオーガニックシティという話も認識されてきたとおっしゃいましたが、それではこの市民のアンケートの中で、オーガニックシティというのはどういうところに位置づけされているかといいますと、残念ながら施策ページの左下にしかない。認知度も低いし、あまり重要とも思われていないのかなと。ただやはり、これは政策として意味ないという話じゃなくて、やはりやっていけないといけないことであると、しっかりアピールしてやっていかなければならないということであろうと思うので、この計画策定の背景のところで、もちろん一つの要素としてアンケートの結果を出されるのはいいと思うんですけども、それを出して、例えばこのオーガニックの話というのをどういう具合に説明されるつもりなのかなと。この施策ページの左下のところにしか記載がないのですが、これは木更津としてやっていくんだよということをどういう場合に、して説得していくのかな。そこが非常に大事なところになると思うんですけども、その辺に対して何かお考えがあったら聞かせ願いたい。

○企画課 鈴木次長

まさにこのアンケート調査というものは、どちらかというと自分の生活に密着している部分は非常に評価が高く、日ごろあまり関係性がなかなか感じられない施策が、相対的に評価が低いというような傾向がございます。まさに国友委員のご指摘のとおり、そういった形の評価だけでは、なかなかまちづくり全般としてはうまく進まないというところは、私どもも理解しておりますので、このまとめという欄におきますと、具体的に各施策の評価をさせてどのように反映していくかを記載してまいりますので、ただいまのご指摘も踏まえて参考にさせていただきながら、記述していければと考えております。こちらの評価だけではなく、市のまちづくりの、今後のまちづくりに向けて重要なものにつきましては、これにとらわれることなく進めていくつもりであるということについても、しっかりと表現していきたいと考えておりますので、またご意見いただければと考えております。ありがとうございます。

います。

○下村委員

公募委員の下村です。今の国友委員のコメントにも多少関連しますが、市民の要望とか評価だけじゃなくて、為政者というのかな、市とか県、国というのは、先の先を、むしろ、住民が見ていない先まで見た上で、また布石を打っていくというのが大事だろうと、そのように考えております。そういう観点では、ちょうど今回の4期で基本構想が一区切りとなります。2030年までで終わるということは、その次を考えて準備することというのを、4期の取組項目、4期自体でご検討を進められる、調査検討していくということ、ぜひみていただければと思います。既にご検討いただいて事務局は進めておられるので、言わないでいいのかもしれませんが、もう1回申し上げたいのは2031年以降の基本構想のみならず、20年、30年、50年経った時の木更津市というのをどう考えるのか、そのために何を長い目で取り組んでいくのか、進めていくべきかという意味です。

例えば、今木更津市というのは市街地プラス周辺地域という構成で成り立っていますけど、こういう構造を20年、40年後も維持できるのだろうか、例えば水道や橋などのインフラがもう老朽化してきたけれども、維持管理するマンパワーもお金もないとか、その先に住んでいる皆さんの人口がものすごく少なくなってきた、さあなっちゃってからは維持できないので、それを考慮し、皆さんに申し訳ないけれども中心部市街地に引っ越してくださいといった話など、5年やそこらで急にできない話だと思います。そういうことを考えたとき、長い目で維持できるのかできないのか、どういう都市づくりをすべきかということ、長い目で準備していくということとか、あるいは今の木更津市の構造を考えると、地場地域の産業の従事者あるいは一次産業もその前にありますが、それプラス東京とかその他の都会地への通勤者というなりわいの構成になっている。これがまた今の5年、10年、40年という中で、どうなっていくと読むのか、維持できるのか、例えば通勤などという意味から考えたときに、アクアラインだとかJRのキャパ等々から見たら、これを成長させる、人口増加を図るとか言ってもそれが本当にできるのだろうか。そのために何を考えていくか。逆にその産業を活性化してクローズドで、パワーが活性化できるようにするためには、従来からの企業誘致施策とか何かだけでいいのか、何か他に徹底的に、熊本の半導体産業じゃないけれども思い切ったことをやっていかないとなかなか日本の今の国内財経済など、何かの中では企業さん来てくださーいと言ったって始まらない。そういうことを考えていくために今回の4期の計画自体にそういうことをスタディしていくなど、将来を先を読んでいくっていうのを、ぜひなかなか難しいでしょうけれども、お取り組みいただければと思った次第でございます。

○企画課 鈴木次長

今回は第4次基本計画ということで、現行の基本構想に基づく最終の計画ということでございます。そしてそれ以降の本市のまちづくりの最上位の計画である基本構想につきましては、まさにこの計画、第4次が始まった早々から、次の計画づくりが始まるのかなと考

えております。そういったところにつきましても、今回施策の中にはしっかりと記載していきたいと考えておりますし、また先ほどご説明しました策定方針の中にも、2ページ目の基本的な考え方3の(1)の最後の方に、次期基本構想における基本政策の立案に資する取組についても、今回の計画の中で合わせて位置づけの方を検討すると明記してございますとおり、その先を見据えた形で、次の基本構想につなげるための取組についても可能な限り盛り込んでいきたいと考えております。様々なご発言をいただきましたけれども、そういったものも踏まえながら今後計画作りの方を進めていく、あるいはこの次期基本構想をどのような形で作っていくかということにつきましても、またこの総合計画審議会の皆様にご意見をいただきながら、次の基本構想についてもどのような形に、何分時代の変化が本当に早い時代でございまして、また国におきましても、今市町村が行っている事務をまた県の方に戻すとかという動きも出てきていると伺っておりますので、そういったところの中で、市の構想をどのような形で作っていくかということにつきましては、またご意見を頂戴しながら市としてもしっかり考えていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○越路委員

まずご説明ありがとうございました。他のまちから来て働いている立場の者として非常に魅力ある可能性のあるまちだと感じています。資料についてもとても網羅的で緻密な印象を持ちました。そのような中で、人口減少の中、持続的なまちづくりという観点でいうと、資料2の基本方向②子どもを育む環境づくりとあります。外から人が流入する側面もあるかと思いますが、このまちで暮らしている方が大人になってもこのまちで生活をしている、そんな側面も必要かと思っております、とても重要なんですけれども、この子育てについてはとても注目しているというところです。そのような中、学校教育の充実という項目が設けられていまして、そういったところはソフト・ハードともに充実させていく必要があるなということを強く感じていまして、質問といいますか、意見としてお伝えしたいと思いました。以上です。

○企画課 鈴木次長

様々な形で全ての施策が重要ではあるのですが、そういった中で特に子育て教育というところについて重点的に取り組むべきだというような声を頂戴したと考えておりますので、ご意見も踏まえながら計画づくりを進めてまいりたいと思っております。

○瀬沼委員

木更津市産業・創業支援センター、らづBizの瀬沼です。まず資料に関しては非常に分かりやすくなっておりまして、ただ肝心なところは次回以降の重点プロジェクトで確認することなので、資料に対しては全くご意見等ございません。

ただ皆様の、玉丸委員から始まった意見を聞いていて、非常にこういう会話自体もいいなと思いましたので、資料に対してのということよりはちょっと今お話が出たのに合わせてのというところでお話ができればと思うのですが、例えば下村委員がおっしゃったようにそもそも人口が減っていく中でというのは非常にそのとおりで、それを踏まえて市が打ち

出しているのがオーガニックシティというコンセプトなのかなと思います。例えばアクアラインが6車線になった方が良くみんな思っていると思います。しかしながらお金をどうするのとかそういうのがある中で市としては有機的にという表現が分かりにくいかもしれないけれども、それを十数年前から打ち出して、むしろ民意がついてきたというか、というのが先ほど市の方が言っていた通り、徐々に広がっているという認識だと思うので、これが知られてないからだめ、という論点だと違うのかなと思います。ですので、下村委員の意見に賛成です。

そんな中で、先ほど地場の産業の話がありましたので、自分が該当しているのが産業振興ですのでお話しすると、お手伝いしている木更津市のふるさと納税返礼品というのが、この近隣4市の中で実は1位です。ふるさと納税返礼品って皆さんご存知の通り肉とか魚とかのイメージがあると思うんですが、実は木更津市は体験型がその構成比が高くて、この後ご自宅に帰ってからふるさと納税返礼品の木更津市のラインナップを見ていただきたいのですが、体験系のコンテンツが多いんです。しかもそれが実は一定の金額を払わないと得られない体験というものが、この木更津市の実は強みになっている。実はそういったものがある中で、市としてはどういう打ち出しをしていくのかというときに、先ほど関係人口という話があったと思いますが、今後人口、人数を多く追っかけていく時代ではないんじゃないかと考えます。そもそも母数が1億を切っていく中で多く人数を集めればいいのかというと、オーバーツーリズムという話が、外国人だったと思いますが、外国人じゃなからうと日本人だろうと呼んだところで人口が減っていったらさばける人がいない。今「らぶ-Biz」でお手伝いしている中でスタッフがいない問題、お客は来るんだけどお客をさばく人がいないんだと。そんな中で時給が1,200円になっていますので雇えない。そんな中で地域の皆さんは物価が上がっていいのですかという、観光地価格になったら嫌ですね。そのようなことが連動しているまちなんです。ですので、京都然りよろしくのようになってしまうと地域住民が住みにくい。そのような中でオーガニックというのが打ち出ているのじゃないかと。何が言いたいかというと、人数を追いかけるだけじゃない方向性が木更津市には感じられるのではないかとことです。なので、関係人口というときに、それこそ人数を呼ぶのだったら、40人のバスの乗客がどんな客層だったらいいいのか、それが100円のジュース、今100円ではなく200円ですか、そのジュースを買ってくれる人に寄ってもらうのか、はたまた5千円から1万円の客単価を落としてくれるお客様に来てもらうのか、そんなところからまちを設計していく段階に、今は来ているのではないかなと思っています。そうすると、捌く人数が仮に過去と同じ、もしくは前年比8割の人数だとしても、客単価が上がっているんでいいと。こんな形の方が木更津市は感じられていると思いますし、市のスタッフの皆さんも感じられていると思いますので、また委員の皆様にも、なかなかそれが公開できている情報とできていない情報があると思いますので、ちょっとそんなきっかけがある中で皆様が感じられる各ご専門の領域、今日でいうと産業・教育機関・金融・労働団体・メディアなどのエリアで感じる変化、このようなものをここで有機的に話していく場になったらいい

いのかなと思いました。ですので、自分はここで特に、問題提起というよりもチェック機能として、この委員会があるのはいいと思うのですが、各自がこの会議の後に各自の持ち場に帰ったときに、このオーガニックシティというコンセプトにのっとって有機的に動くきっかけみたいなものに、この会議がなるといいのではと思いました。非常に皆様のご意見がよかったので、同じようにじゃあ僕らができることって何のというと、市に対して要望するだけでなく、僕ら自身も変えられる領域はあるんじゃないかなと思いましたし、そのフィードバックをまた次回のときに、実は前回市の中で上がっていた意見がこうだったんですけど、こんなことをしてみたらとなれば、より有機的になるのかなと思った次第です。非常に皆様との意見が良かったので、自分の領域で起こっていることの共有と、逆にこの約20数名いらっしゃる中で、できることの可能性みたいなものを感じましたのでお話しさせていただきました。

○企画課 鈴木次長

今回計画作りにあたりまして、こういった多様な皆様からご意見をいただくということ、また有機的というところでオーガニックなまちづくりについて、説明の方を追加していただきましてありがとうございます。またこういったところで、この審議会を活用させていただきながら、より良い計画作りにつなげてまいりたいというふうに考えておりますので、各委員の皆様から多様なご意見を頂戴したいと考えております。

○吉田委員

環境カウンセラー千葉県協議会の吉田です。先ほどからオーガニックシティの話がいろいろ盛り上がっているんですけども、私の考えは、市長も4期目になりますし、オーガニックという言葉を出してから、この集大成をする時期なのではないかと思っております。私は技術系であまり上手には言えないですが、基本的にそのオーガニックというのは有機的なという意味で、言葉になるとそうなるんですけども、一般の人には、なかなかうまく結びつかないと思いますので、この4年間で3期目まで12年間でやってきた中で、これに関連するようなイベントが結構あると思うので、それらを集大成としてまとめていけば、「やっぱりこういうイメージがオーガニックシティだな」と市民にも分かるようになるんじゃないかと思います。最初から定義づけてやるというのは難しいというのは分かります。例えば給食に対してやったことなど、これも完全にもう結びつく話ですし、あるいは三井アウトレットとかそれからコストコ、こちらはもう外国人の方がいっぱい来ていますよね。すごい賑やかになって、これも有機的に色々な影響を受けているわけです。商業だけでなく、文化でも。そういうものをいろいろ積み上げていくと、やはり最初イメージしていた、そのイメージを、もう少し市民に具体的な例で結びつけると、もう少し浸透するんじゃないかと。集大成ですから、そこら辺を企画の方で考えていただければ、日本の中でも、こういう言葉を使っているのに注目されていくのではないかと思います。それからもう一つ、新しい言葉「ロジックモデル」という言葉がいくつか出てきているので、分かる人と分からない人がいるのかなと思うんですけども、それからバックキャスティングとか、フォアキャスティング

グとか、という一つの手段、ツールの言葉かもしれませんが、分かりやすく、もう目標はこれですよと具体的に言って、それに対して、こういうふうに具体的にやるんですよ。積み上げでもいいし、2040年、2050年に、どういうまちにしたいのかと。カーボンニュートラルは2050年ですけど、これはもうはっきりしています。CO2の排出をゼロにしましょう、という、数字まで出しております。ただ本当にいくかどうかというのは、これから計画を立てればいいわけですから。基本的には、そういう考え方で、このような総合計画みたいなものは作られたらいいんじゃないかと思います。それから、もう一つ、時代がどんどん進んでいるわけですが、DXという言葉があるんですけど、デジタルトランスフォーメーション。まあ、国は相当こう言っています。それに、最近は「生成AI」。これがすごい勢いで今進んでいますから、これに行政として、どういうふうに対応していかなくちゃいけないかと。これは市民にとって良い点と悪い点と両方が絶対出てくると思うんですよ。ついていけない人もいますし。東京とかそういうところはどんどん進んで取り入れていますから。いろんな功罪があるかと思います。これは、今回の中に一つも出ていないので、2030年までには相当なレベルになっていると思いますし、生活にも影響しているんじゃないかと思うのですが、そこらへんを考慮していただければいいんじゃないかと思います。

○企画課 鈴木次長

まず、オーガニックなまちづくりについて、でございますけど、15ページ、16ページに記載したいと考えておまして、これまでの10年間の取組についても、しっかりとした形でより分かりやすくということも含めて、整理したいと考えておりますので、いただいたご意見を踏まえながら、これからの素案づくりに活用させていただきます。

また、2点目のロジックモデルにつきましては、これまでも目標を設定し、それに向けて、どのような施策展開を行っていくのかというところで計画作りを行ってきております。そういった中で、ロジックモデルはわかりにくいというご指摘もございますことから、そのあたりはしっかり一般の方にもわかりやすいな形で、改めて素案あるいは骨子案の中で、記載について注意していきたいと考えております。

3点目のDXでございますけれども、おっしゃる通りAIがかなりの勢いで世の中の状況を変えているところがございますので、いただいたご意見も踏まえて、社会潮流のところか、そういったところに、しっかりとAIの流れについても計画に反映していきたいと思います。

○渡辺市長

いろいろとご意見ありがとうございます。オーガニックについては、なかなか分かりづらく大変恐縮ではございますが、様々なデータを見る中でも、近隣でも君津、富津もだいぶ人口も減っていく、女性も減っていく、木更津と袖ケ浦についてはそう減らないだろうというデータもある中で、自治体の基本として考えていかなくちゃいけないことというのは、やはりその地域の中で、いかに持続可能に進んでいけるかということの中で、オーガニックなまちづくりについては、「オーガニック」が一人歩きしているところもありますけれども、基本理念が自立・循環・共生としており、できるだけその地域の中で、色々な人物、モノ、お金

を回しながら、そしてそれぞれが利益を得ながら前に進んでいって持続させる、そのためにはそれぞれが手を取り合って進んでいかなきゃいけないという共生の部分。これプラス自立というものが自分でやってくださいということではなくて、それぞれの自分たちの武器をしっかりと持ち社会に参画し社会を支えようという、自立・循環・共生という考え方をしっかりと根差していきたいという意味で、このオーガニックなまちづくりを使っております。

全てが自然との共生とか人との共生含めて、プラス未来にしっかりとつなげていこう、この地域をみんなで支え合いながら未来へつなげていきたいという思いで使っております。

なかなか表現が難しいところもありますが、その中でも先ほどご議論にあがった給食の話であったり、加えて農業の話であったり、木更津は市民活動がとても多くて、100以上の団体が動いていてそれぞれが一生懸命努力をしていただいているボランティアが多いまちであります。そういう意味でもこの活動をもっともっと大きくしていかなければいけない中では、やっぱりこのオーガニックの理念、言葉はなかなか難しいかもしれませんが、その持つ意味というのはそれぞれ大切だと思っております、これは行政の基本だと思っています。それプラス社会の変化に合わせて、圏央道がつながるなど、いろんな地域とつながっていく中で、場所は変わらなくても、地域における役割分担とか、これから伸ばす部分・伸ばせない部分とかが出てくる中で、いろんな取り組みを、様々な形で連携をしていかなければならないと思っています。

それは皆さんと一緒にいろんな可能性を考えながら、どこをどうやって誰と結んでいくのかというのは考えていかなければならないということで、オーガニックなまちづくりはベースとしても、今期の中で今この第4期が終わると第5期。第4期が終わると2030年。先ほど言われたように次の構想をスタートさせなければいけない。おそらく次の構想の目標は2050年ぐらいになると思います。4年かける5期で20年、ちょうど2050年なので、そこをターゲットに次の構想をスタートしなきゃいけない。その中でこの今回、今期の構想をある程度のところまで、あと4年で何を完成させ、何が足りないかを見つながら次の構想につなげる。そんな4年間にしたいという風に思っておりますので、ぜひ皆さんにも今期では次の4年で何をしなきゃいけないのかということも、いろいろご発言いただいて、それを盛り込みながら次の計画を作っていきたいという風に思っておりますので、忌憚のないご意見をいただきたいと思ひますし、こうあるべきだと、こういう方向が必要なんじゃないかという言葉をもっとご発言いただければという風に思っております。なかなか事務局も私どもも能力がしっかり納得できるものが揃っていないのでうまく表現できないかもしれませんが、精一杯やらさせていただきますので、いろいろご意見をいただければという風に思ひます。

○平柳委員

私もオーガニックなまちづくりについては、最初、市長がそういう話をされたときに、パッと浮かぶのはやはり有機農業のようなイメージだったんですね。それから年月が経つと、なるほど循環型社会の話なのかなっていうことは理解するようにはなっているんです

けれども、ただ皆さんから意見があったように、何かイメージしづらいというか、自分の肌感として具体的に何か感じられ難いっていうのかそういった部分が多分にあるような気がして、今のように市長からこうですよって言われると、なるほどなというふうには納得はできるんですけども、やっぱりそのあたりの打ち出し方というのをもうちょっと工夫していかないといけないのかなと思います。

それから、この施策体系を拝見しますと、網羅的に重要だと思われる施策が入っており、これ自体は素晴らしく、今後の中身の話になっているかなと思います。ただ、この資料2の18ページのところ、重点プロジェクトを拝見すると、木更津市の基本構想という大きな柱があり、その具体化としてこの4次プロジェクトを推進しますよという、そういう立て付けになっていると思います。ですので、まずこの施策体系のどの部分が、このオーガニックなまちづくりのぐるっと回っている1から8の中に含まれるのかとか、それがどこでどういった成果につながっていくのかなとか、あるいは、このプロジェクトをこれから4年間やってみて、実際にこういった1から8まで掲げているものに対して、どういった成果が現れてきているのかなという、これが理想とするまちの状況ではないかなと思いますので、そこと何か関連づけたような内容もあった方がいいのではないかな、というふうな気がします。

もう一つ、これもこれからの話だと思うのですが、資料ナンバー3、裏表で拝見してみると、見やすくいい感じだなと思います。おそらく文字よりもグラフだとか、いろいろなデータをいれていくことになると思いますが、裏面の右側を見るといろいろな数字が出ていて素晴らしいのですが、字が多いと逆に見づらくなってしまいます。立て付けを拝見すると、資料編というのがあるんですけども、我々もディスクロなどを作るときは主要なところは本当にわかりやすく、それに基づくデータというのはまた資料編の方で、もっと深く知りたい人は見ましようねという、そのような立て付けをしていますので、そういった資料作りの上でもひと工夫いただくと、より理解しやすい計画になるのかなという気がいたします。以上です。

○企画課 鈴木次長

オーガニックなまちづくりにつきましては、様々な方からご意見いただいておりますので、しっかりと、よりわかりやすいものに、こちらの計画の中でも記述していきたいというふうに考えております。こちらの地域循環共生圏のイメージということでございますけれども、小さいパワーポイントの資料一つでございますので、こちらも施策横断的な取り組みとなっておりますので、しっかりと分かりやすいような形で整理して、実際の作成にあたっては、工夫してまいりたいと思います。

3点目の、資料について、数字は後段の方に網羅的に記載した方が良いのではないかなというようにご指摘だと思いますので、こちらにつきましても、なかなか私も、記述を多くすると読んでもらえない、また数字だけにすると、ちょっと味気がないなというところもありますので、数字は後ろの方にまとめて記載するのご提案でございますので、そういった

ところも踏まえて、作りこみの検討を進めてまいりたいと思います。ありがとうございました。

○国友委員

今の平柳委員との話とも関連するんですが、例えば1-2の計画策定の背景、11ページ、12ページですが、読みやすく、わかりやすくということで、箇条書き等を使って整理されているというのは非常にいいと思うんですけども、その横にコメント的に、行政手続きオンライン申請利用率30%と書いてあるんだけど、目標ではないだろうし、現状がこうだということなのか、何の意味なのかがわからないですね。例えば右下の12ページの、2050年、単身世帯が占める割合44.3%と書いてあるけど、今がどのぐらいなのか、それがどうなると考えているのか、これはあくまで1つの例だと思うんですけども、結局、あまり端折りすぎると情報として何を言っているかわからない。それから、例えば12ページの上の南海トラフ地震の70%から80%というのは、昨年の9月に地震調査委員会の方で全然違う話が発表されているので、やはり読みやすくわかりやすくとともに、情報を正確に伝えるということも大事だと思うので、必要があれば参考文献じゃないけれども、参照先を示す話をどこかに書いて、出典といいますかそういうものを書いていただくと、詳しく知りたい人はそこを見られるし、そんなものかという形でさっと眺めて理解していただくにはシンプルな方が良いでしょうし、その辺の正確さと読みやすさ、わかりやすさを上手くバランスをとっていただくようお願いしたいなと思いました。

○企画課 鈴木次長

こちらの記載につきましては、まだ項目や記載内容が最終的なものではなくて、現時点でのイメージということで載せさせていただいたのですが、イメージにしてもなかなかわかりにくいというところまでのご指摘だと思いますので、よりわかりやすく、また、数字についてもしっかりと出典や、数字が持つ意味合いなどについてもしっかりとしたものを実際に計画の中には盛り込んでまいりたいと思っておりますので、大変申し訳ございませんでした。

○吉田委員

蛇足になるかもしれませんが、今回の中でも、前回も色々話があったウェルビーイングですが、かなり色々なところでちりばめてっていうとおかしいんですけども、言葉として色々入っているので非常にいいかなと思っております。SDGsというのも、今小学校とか教育関係では相当浸透しているかと思いますが、もともと国連が2000年にMDGsをやって、2015年にSDGsをやって、今度は2030年には何かを出してくるだろうと。大体国連が考えているので、私はウェルビーイングぐらいの話がまた出てくるんじゃないかなとは思っているんですが、なかなかこれは定量化は難しいんですよね。幸せ感とか、幸福感とか。だからこういうのも、今まででもそうですけど、説得力があるのはやっぱりもう少し、私は技術系ですので、数字的に、あるいは写真で見せるとか、こういうものを上手く使われたらいいと思います。内閣とか行政はびっしりと言語になっているんですけど、あまり読ま

ないですよ。本当の専門家でないと。だけど、一般の人はやっぱり定量的にグラフとか、そういうもので訴えたほうがよりいいんじゃないかと。それと、エネルギーと食料は否が応でも自給自足、自治体でもそういう方向に向かわざるをえないんじゃないかと。今の戦争を見てわかると思うんですけど、そんな感じはしていますので、いろいろと検討をされたらいいと思います。

○企画課 鈴木次長

ご指摘のとおり、よりわかりやすい内容ということで、工夫をしてみたいと考えておりますので、引き続き、ご意見を頂戴したいと考えております。ありがとうございます。

3. 閉会

○清水会長

それでは、審議終局といたします。以上で予定しておりました全ての議題が終了いたしました。委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。

以上をもちまして、令和8年度第2回木更津市総合計画審議会を終了とし、進行を事務局へお返しいたします。

4. その他

○企画課 鎌田課長補佐

委員の皆様、長時間にわたるご審議ありがとうございました。最後に、事務局より、その他といたしまして、次回の審議会の開催予定についてご連絡いたします。次回は令和8年9月9日の水曜日を予定しております。会場につきましては本日と同じ、こちらの駅前庁舎防災室・会議室での開催を予定しております。議題につきましては、本日ご提示した、もう少し精度を高めた形の骨子案、意見聴取、進行管理の仕組みについて、ご報告させていただく予定となっております。開催通知等につきましては、改めて送付させていただきますので、ご出席賜りますようお願い申し上げます。

以上を持ちまして、令和8年度第2回木更津市総合計画審議会を終了いたします。本日はどうもありがとうございました。

令和8年度第2回木更津市総合計画審議会の内容について、上記のとおり確認します。

令和8年 8 月 26 日

木更津市総合計画審議会 会長

清水 一太郎